

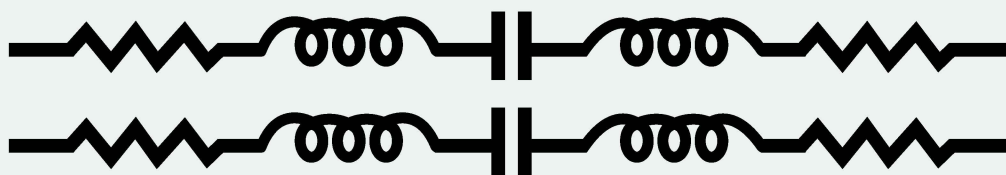


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 68 号

2022 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 久保田賢二	1
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 本間 尚樹	2
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 山中 克久	3
第18回（令和2年度）草刈賞受賞者		4
東京支部からの寄稿		
Enjoy your life! Enjoy my life!	富塚 秀樹	5
失敗からの学び方	佐伯 勇輝	6
2021年の今について、雑感	高橋 圭介	8
プラズマ技術の産業応用 アンモニアを用いた脱炭素技術の開発	三浦 友規	9
《支部だより》令和3年度東京支部報告	狩野 利之	10
令和3年度仙台支部報告	田中 利光	11
令和3年度盛岡支部報告	宮手 敏雄	12
令和3年度岩手大学電気電子情報科会総会・議事録		13
令和2年度決算書・令和3年度予算書		14
令和2～3年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		15
令和3年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース教職員名簿		16
総会添付資料・理事会議事録		17
令和3年 年表		18
岩手大学電気電子情報科会会則		20
トピックス・編集後記		21
創立80周年記念式典並びに令和4年度総会のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和 42 年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 68 号」をお届けできますことを嬉しく思います。東日本大震災からもう少しで 11 年、沿岸被災地を通る復興道路三陸沿岸道路（三陸道）が昨年 12 月全線開通する等、復興は大分進みました。この間被害に遭われた方々の心身のご苦勞に思いを致し、また皆様には一昨年から続いている新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、気苦勞の多い日々をお過ごしのこととお見舞い申し上げます。

本会では、毎年 3 月に行っていた新会員歓迎会は 2 年続けて中止、令和 2 年度総会を同年 10 月の臨時理事会で代行、令和 3 年度総会は講演会と懇親会を割愛して総会のみという形で 6 月 26 日に盛岡で行いました。

本科会は、岩手大学理工学部的前身旧制盛岡高等工業学校電気科第 1 回卒業生によって 1942 年（昭和 17 年）1 月 1 日に発会、本年 1 月 1 日をもって満 80 年を迎えました。総会では、コロナ禍のために延期していた 80 周年記念式典を、本年令和 4 年 6 月 25 日に仙台市で総会に続いて行うことに決定しました。仙台支部には多大のご苦勞を頂くこととなりますが、ご高配に感謝申し上げます。また、ホームページに掲載されていますように、母校勤務の正会員から事務局に、「コロナ禍の長期化により経済的に困窮している学生がいるので、本科会でも給付型奨学金を検討してはどうか」という提案が寄せられ、理事会及び総会で審議して基金会計から岩手大学イーハトーヴ基金（岩手大学修学支援事業基金）に 50 万円を寄付することになりました。

さて、本年もこの 3 月に母校を卒業・修了する百数十名の新たな正会員を迎えます。真に喜ばしいことです。今春正会員となる学部卒業者は平成 28 年度に改組・設置された理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースと知能・メディア情報コースの第 3 回卒業、大学院博士前期課程（修士課程）は改組後の第 3 回修了、大学院博士後期課程修了者は同第 1 回修了とのことです。就職して社会に出る方、修学を続ける方、新たな分野に進む方等、進路はいろいろと思いますが、健康に留意して活躍されることを、そして学友・先輩・後輩との絆をもって親睦を深め、啓発し合い、豊かな人生を歩まれますよう祈念致します。

ところで、本会の運営は、大学入学時に頂く入会費と卒業後 10 年毎に納入頂く 1 万円の年会費（過去 10 年分の会費）によって賄われております。年会費未納の方には振込用紙を同封致しますので、ご賢察頂き納入下さるようお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 本 間 尚 樹

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

電気電子通信コースでは今年度、69名の学部生、3名の編入学生、42名の修士課程学生を新たに迎えることができました。スタッフは、今年新たに技術職員として庄司愛子さん（成田先生の研究室ご出身）が新たに加わった他、技術職員1名の産休・育休に伴い紺野亮さんが新たに加わっています。教員の体制に変化はありませんが、現在本コースは、教授7名、准教授6名、助教4名の17名で教育および研究活動を行っております。

今年度を振り返りますと、やはり感染症との格闘の1年だったと感じます。入学式の中止、ソフトボール大会の中止、3年生の工場見学（関東・県内）の中止など、ほとんどのイベントを実施できず、コースとして貴重な経験の場を学生に与えられなかったことが本当に残念です。一方で、今年度はほとんどの実験・実習・講義を対面形式で実施できたということもあり、直接向き合いながら学ぶ機会を与えられたのはうれしい限りです。また、電気電子通信コースでは昨年に引き続き、独自の学位授与式を対面で実施する方向で検討しています（現時点では、感染症対策として学内関係者のみの参加に限定する予定です）。

当コースに関する明るい話題として、高木浩一教授（静電気学会論文賞）、高橋克幸准教授（静電気学会論文賞、EAPETEA-8 Outstanding presentation award）、修士1年の佐藤蒼海君、佐藤太進君、菊池尚紀君（The 12th Asia-Pacific International Symposium on the Basics and Applications of Plasma Technology, Best paper award）、修士2年の小野寺和希君、近

藤慎之介君（電子情報通信学会 アンテナ・伝搬研究会、学生奨励賞）の受賞に関するニュースがございました。研究に関する多くの榮譽が与えられ、我々教職員も強く勇気づけられました。

進路関連の話題といたしまして、大学院進学率は他大学を含めて約5割となり、昨年に続き少なめとなりました。就職については、電機メーカーを選ぶ学生が最多で、次いで電力関連企業、さらに鉄道や通信関連の企業と続いています。コロナ禍ということもあり、就職活動のスタイルも大きく変わりました。多くの学生はオンラインで面接を受けながら苦勞の末希望の職を手に入れるというケースが多いようでした。そのような状況であっても、最終的には例年通り多くの学生の進路が無事決まり、これもひとえに電気電子情報科会の先輩方の温かいお力添えの賜物であると思います、皆様方には心より感謝申し上げます。

全国的な傾向として、電気電子関連の学科を選ぶ受験生が減少しています。高校生・保護者の皆様から見ると日本の電機業界の元気がなくなっているように見える、ということも一因なのではと推察します。しかし、コロナ禍であってもますます電気電子そして通信関連の人材に対する社会的な需要は増加し続けており、日本経済の発展には電気電子通信関連の産業の活躍がカギになると信じております。そのためにも、当コースにはそのような業界で活躍できる優秀な人材をより多く送り出す使命があると考えます。

最後になりますが、教職員一同、魅力ある大学、コースになるように努力していく所存です。今後とも、本電気電子通信コースの教育・研究活動等に、ご理解とご協力並びに会員の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 山中 克久

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。本稿の執筆時点では新型コロナウイルスの新規感染者数が少ない状況ではございますが、日々気を緩めることができない状況でございます。一日も早く、落ち着いた日常に戻ることを祈るばかりでございます。

平成28年度の改組により知能・メディア情報コースが誕生してから早いもので6年目となりました。今年度は63名の新生を迎えることができました。当コースには、現在、教授6名、准教授5名、講師1名、助教3名の計15名が所属し、IT技術を支える情報工学を専門とした教育・研究を行っております。ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどに関する基礎をしっかりと教えるだけでなく、情報工学の技術者にとって重要なプログラミング技術のスキルアップのため、毎学期で継続的にプログラミング関連の演習を行うなど、実践的なカリキュラムを提供しています。また、学生の自主性や協調性を養うための課題解決型学習の科目、さらにキャリア教育を目指したセミナーを実施する科目も導入しています。

昨年度に引き続き、令和3年度も、新型コロナウイルス感染に注意しつつ教育活動を行っております。昨年度の前期は、大学全体での方針により、ほとんど全ての授業がオンラインで実施されました。その後、後期より対面授業に戻るといった形で授業等を行って参りました。一方、今年度は、感染対策を行いつつ、4月から対面授業を基本として授業等を実施して参りました。対面授業を行うことができる喜びを感じていた矢先、新型コロナウイルス感染の状況が悪化し、岩手大学全体で、一時的にオンライン授業に変更する期間がございました。対面からオンラインへの突然の変更であったため戸惑いを感じましたが、昨年度に実施したオンライン対応のノウハウを活かすことで乗り越えることができたかと思っております。これも、教職員・学生の協力の

おかげだと感じております。また、今までは当たり前前のことであった「対面で授業を実施できる」ということのありがたさを改めて痛感する出来事でもございました。

研究面では、多くの学会が、昨年度と同様に、オンラインで開催される状況が続いております。完全オンライン開催の学会が多いですが、人数を制限した現地参加者とオンライン参加者のハイブリッド形式で開催した学会もあるようです。インターネットの環境さえ整えば、国内外を問わず気軽に学会に参加できるという長所もあり、学会発表を通じての情報収集・発信が行いやすくなったように感じております。もちろん、学会での休憩時間や懇親会に行われるようなややフランクなコミュニケーションを取ることが叶わず不自由さを感じる場面もございます。

研究面における明るいニュースとして、学会発表等において、以下のような受賞がございました。

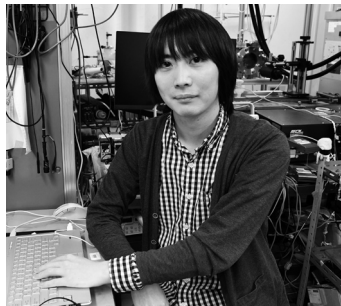
- [1] 芸術科学会主催 NICOGRAPH 2021 優秀論文賞（フルペーパー部門）：千葉大輔、松山克胤、シャドーボックスアート制作を支援するツールのデザインと実装、2021年11月
- [2] 情報処理学会 山下記念研究賞：荒木徹也、堀山貴史、中野眞一、岡本吉央、大舘陽太、上原隆平、宇野毅明、山中克久、Sorting by Five Prefix Reversals、2022年3月

当コースが関わる分野では、人工知能に代表される情報技術が世の中を大きく変えつつあり、また、小学校からのプログラミング教育必修化が実施されたことから、国の将来を担う人材の育成が大きく期待されるものと考えております。今後も、新型コロナウイルスの影響を受けた状況が続くかと思っておりますが、皆様からの期待に応えられるよう、教職員一同、継続して精進していく所存ですので、会員の皆様には、益々のご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

草刈賞

第18回(令和2年度)草刈賞受賞者

草刈賞を受賞して



草刈賞を受賞して一年が経とうとしています。伝統ある賞を頂けたこと、大変光栄に思います。

私は学部時代、学生議会運営委員会に所属し、副委員長を務めました。委員会では、学生と教職員による学生生活についての討論会や通常議会を運営し、学生からの大学への意見・要望の集約や予算決議、大学との直接交渉などを実施し、大学の諸問題の改善や、学生の意識向上に取り組みました。また、岩手大学の良さを地域の人や学生に発信する手段や企画などを学生間で話し合い、実践する活動も行いました。本活動を通じて、チームで活動するこ

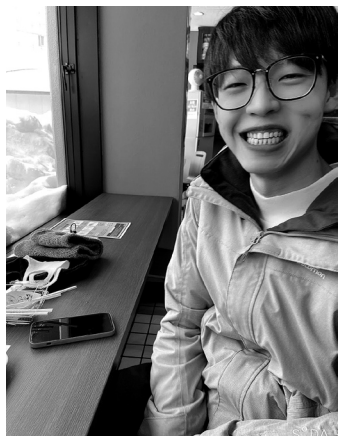
電気電子通信コース 佐藤 太進

とや、価値観の違う人を繋ぐことの難しさや重要性を学ぶことが出来たと感じています。

私は現在、岩手大学大学院に進学し、プラズマを用いた成膜技術について研究しています。研究活動では、学部時代よりもさらに専門的な知識が多く要求されるため、今まで以上に勉学に励んでいます。大変なこともあります。新しい知識を得て、物事への理解が深まっていくことに楽しさを感じています。問題の解決には先生や先輩・同僚との議論が重要になるので、委員会で身に着けたコミュニケーション力を活かし、諸問題を解決していきたいと考えています。

最後に、大学生活をこれまで支えてくださった家族、先生、友人たちに感謝申し上げます。今後も日々精進して参ります。

草刈賞を受賞して



草刈賞を受賞してからもうすぐ一年が経ちますが、今も草刈賞を頂いた事に大変嬉しく、光栄に思います。

両親の健康問題で5年間の岩手大学での学生生活を思い出すと、いっぱい笑った事もあり、いっぱい泣いた事もたくさんありました。知らない地で初めての一人暮らしから始まり、今となって日本で就職できた事はまるで夢のようで、岩手大学にいた日々はとても充実したと感じました。

父の後ろ姿を追い、電気電子コースを選んだ自分は後悔しませんでした。日々大学で懸命に

電気電子通信コース オン ホーイン

勉強し、試験や実験、卒業研究に悩まされながらも大学以外の時間は盛岡 YMCA でボランティア活動に没頭して日本の色々な所で有意義な時間を過ごせました。特に印象に残ったのは、毎年行なわれる広島での平和記念式典のため、住んでいた岩手からも折り鶴を献納したいと思い、各地のたくさんの方から思いを寄せた折り鶴を集めた事に新聞から取材された事です。その他にも全国 YMCA 大会で全く違う大学の学生同士で社会問題について行動を起こした事など、学業以外に貴重な体験をさせていただきました。岩手大学の学生であった私はとても誇り高く思い、今は会社で高周波コネクタの研究と開発に携わっています。

最後になりますが、大学でこれまで支えてくださった先生、家族、友人達に心から感謝し、草刈賞を受賞した事を忘れず、引き続き大学で学んだ知識を仕事に活かしたいと思います。

東京支部からの寄稿

Enjoy your life! Enjoy my life!

富塚 秀樹 (平成2年電気卒)



人生100歳時代と言われています。今年で55歳になり、今までを振り返り、逆境にめげず仕事、趣味、食事、人生を楽しむ為のコツと私のお勧めを紹介したいと思います。

1. 仕事を楽しむ

映像通信機器メーカーに入社し、放送カメラの開発業務では最初の3年は楽しむ余裕はありませんでしたが、NTSCからハイビジョン、4K、8Kカメラまで開発した放送カメラは全世界で活躍しています。

英会話の苦手な方にはオンライン英会話をお勧めします。教師が好みの異性なら毎日でも苦になりませんよね。苦手な業務などやる気が出ない人はやる気を出す動機を考えてみる。人間は動機が不純であるほどやる気がでるそうです(笑)。

昨今、コロナの影響で在宅化、リモート会議で仕事の仕方もガラッと変わりました。また、成果主義による人間関係からメンタルストレスも増えています。『今日の嫌なことは忘れ、明日の楽しいことを考えましょう』。無理をせず『ありのままに今を輝く』ことで仕事を楽しみましょう。

2. 趣味を楽しむ

社会人から始めたテニスは30年間続けます。テニススクールではテニス以外にコーチの指導する言葉に刺激を受けています。良い点を褒めながら、もっと良くするためのアドバイスを自然な言葉で相手に気付かせる、まさにコーチングでした。これは職場でも活用しました。

全豪テニス向けカメラの開発において、問題発生時も丁寧に部下に指導することで、チームを纏め納期が厳しい時も一丸となって成功させることができました。趣味が仕事に生きることを実感しました。

3. 健康で食事を楽しむ

成人病は生活習慣の乱れから生じます。バランス良い食事と十分な睡眠と適度な運動が必要です。

『意思を持って、行動し続けて、習慣になれば、体質が変わり、運命が変わる』とありますが、コロナ太りの悪い習慣を断ち良い習慣を身に着けたいものです。

高級食材はなかなか手が出ませんが『ふるさと納税』を利用すると手軽に特産物を楽しめます。冷凍庫が肉魚貝類で一杯になってしましますがこれはお勧めです。また、お米は北海道の『ゆめぴりか』がもちり感が好きな方にはお勧めです。

4. 人と交流を楽しむ

東京支部では2017年から幹事として、平成2年卒の同期に声掛けしています。学生時代の剣道部、三曲部の先輩後輩と、支部会の恒例となっている三曲部の尺八演奏は学生時代を思い出させてくれます。

会社の恩師でもある昭和23年卒93歳の石井宗典先輩の絵画(油絵)を鑑賞しに国分寺の画廊に足を運びました。臨場感ある風景画、静物画と石井先輩の凛とした若々しい容姿に脱帽でした。いつまでもお元気で。

甥っ子で令和3年卒23歳の栗和田玄紀君はSE目指しカナダに留学中。コロナ禍でも、将来の夢を目指し海外留学する決意と行動力には頭が下がります。夢に向かって世界に羽ばたこう。

YouTube、Facebook、Twitter、Instagram等で世界中の人たちと情報を共有することが容易な時代になりました。新しい社会で人生を楽しみましょう。

5. 最後に

107歳、長寿の彫刻家、平櫛田中の言葉『六十、七十は鼻たれ小僧、男ざかりは百から百から』
Enjoy your life! Enjoy my life!

失敗からの学び方

佐伯 勇輝（平成4年電子卒）



数年前、とある技術連盟のセミナーに参加しました。私の会社では、この技術連盟のセミナーを管理職の教育や研修に利用させて頂いており、私も何度かお世話になっています。

その中でも私の会社で一番有効活用している「失敗学」の話をしたと思います。みなさんは、失敗した時にどうしていますか？「あっ、やっちゃった。」次は気をつけようと反省し自分の周りだけでクローズしているのではないのでしょうか。もしこの「やっちゃった」を他部署や他分野の方達と共有する事が出来れば、再発防止、未然防止に繋がりますよね、というのが失敗学の目的になります。まず、失敗とは何か？と言葉で言い表した事がある人は少ないと思います。失敗学では、「その時は、正しいと考えて行動したが、望ましくない結果を生んでしまう事。」と定義づけられています。従って、原因は「なぜ、正しいと考えてしまったか」という所にあることになります。

ここからは、実際に病院でおきた事例です。○月×日、12時45分ごろ、看護師（20代前半）は入院患者AとBを昼食のために食堂に連れて行き食前薬を手渡した。患者が2人しかいないこともあって、看護師はよく確認もせず、不注意から薬の選択を誤り、薬箱から患者Bの薬を取り出し患者Aに手渡した。その後、患者Bの薬を探すが見当たらない。患者Bの薬が在庫されていないと思い薬局に行くと患者B用の薬はちゃんと在庫されていることが分かっ

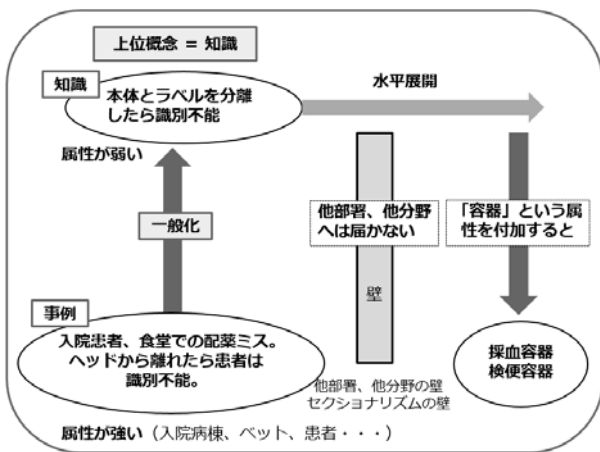
た。急いで食堂に戻り、患者Aに手渡した薬の袋を見ると、それが患者B用の薬であった。もう少しで服用されてしまうところであったというものでした。

この病院でとった対策は、委員会：「薬を配る時はよく確認するよう、再度全員に周知徹底し個人も嚴重注意しました。」、当事者：「薬を配る時はよく確認して配るよう、私自身、以後十分注意します。申し訳ありませんでした。院内メールでも皆さんに呼びかけて周知徹底しました。」という物でした。

この、対策に関してみなさんはどう感じるでしょうか？まあ、普通じゃないのと感じたのではないのでしょうか。失敗学の考えから行くと0点です。この病院は同様の失敗をし続けるでしょう。この失敗学の講師であるH氏は、実際にこの病院からコンサルの依頼を受け、この問題を解決して来たそうです。失敗学では「失敗の原因は、必ず言い訳の中にある。」としています。H氏は、まずこの看護師からなぜ手渡した薬が正しいと思ったのか、言い訳を聞かせて欲しいとお願いしたそうです。すると看護師は、Aさんに薬を手渡す際に「Bさんですね」と問いかけたところ、「はい」と答えられたので安心して渡してしまいました。お二人ともご老人で顔がよく似ておられた。また、入院したてであったので顔と名前も完全に覚えていたわけではなかった。更にH氏は、Aさん、Bさんと呼んでいるけど名前はどのように覚えての？と聞くと、看護師は、それはベッドに名前があるので問題ありませんとの事でした。ポイントを書き出すと、①耳が遠いお年寄りはずべての質問に「はい」と答える可能性がある。②お年寄りの顔はシワシワで見分けが付かない。③そ

もそも入院患者全員の顔を覚えるのは不可能である。

そうです、患者がベッドにいる時は問題ないが、ベッドから離れると顔と名前が一致しなくなる問題が隠れていたのです。従って、正しい対策は「患者に名札を付ける」なのです。「確認不足」や「周知徹底」などの精神論的な言葉は、報告書用の聞こえの良い言葉であって、再発防止や未然防止には、ほとんど役に立ちません。論理的に現実を見つめるべきであり、論理的な仕事の最後のスパイスが精神論や根性論なのです。でも日本人はこの根性論的な物が好きなのですよね。H氏は、理事長室に看護師を連れて行き、原因がこの若い看護師の協力によって明らかになったとことを伝え、早急に正しい対策をするよう促したそうです。ここからが失敗学の出番です。如何にしてこの経験を他部署や他分野と共有するかです。下図を参照して下さい。失敗の原因を文章にし、一般化する事で上位概念としての知識に昇華します。すると、



壁を越え他部署や他分野と共有する事が出来るようになります。そして、他部署や他分野での属性を上位概念に付加することで未然防止に繋げることができるのです。

上位概念というとなしそうですが、言葉から属性を取り除き一般化するだけです。言葉の属性とは、その言葉から連想される物が具体的であるほど属性が強いと言えます。例えば「患者」という言葉で連想するのは病院ですよね。ほと

んどの人が病院を連想すると思いますので、かなり属性が強い言葉です。これを「本体」とか抽象的な言葉に置き換え属性を弱めて行けば上位概念に近づいて行きます。今回の場合は、本体とラベルを別にすると区別が出来なくなると考えることが出来ます。病院での失敗でしたが、本体とラベルの話になれば、どの部署でもどの分野でも使えますよね。

次に別の病院で起きてしまった受精卵の取り違いミスの事例です。受精卵は、シャーレ(ガラス製の蓋付きの皿)の中で培養され、担当医が細胞分裂を定期的に確認します。その日、その担当医は用事があったので時間短縮のために受精卵の入ったシャーレAとBを二つ取り出し顕微鏡で確認、そして蓋を元に戻したそうです。その後、受精卵はお母さんのおなかに戻されました。そして時が流れ出産に向けて検査をしたところAさんとBさんの赤ちゃんが入れ替わっていることが発覚したそうです。もう既にみなさんはお気づきの事と思いますが、AとBのラベルはシャーレの蓋の方についていたのです。人間は、集中した作業の前にやっていたことは忘れる物です。顕微鏡で確認した後に正しいと思って蓋を戻したのですが間違っていたのです。原因は、先に説明した配薬ミスと全く同じです。シャーレの皿(本体)の方にラベルさえついていれば、この不幸な事故は未然に防ぐことが出来たでしょう。

このように、失敗の原因を論理的に明確にし、真の原因を追求し上位概念に上る事でみんなが使える物になるのです。ポイントは、①原因は言い訳の中にある。②原因が分かったら属性を取って上位概念へ。の二つだけです。

長々と書いてきましたが、現在、私は会社で各部署の若手を集めて失敗学の伝道師として定期的に講習会を行っています。始めてから数年たちますが、設計、品証、製造でおきた色々な事例を共有する事ができ論理的に色々な角度で考えられる人材が増えてきたと実感しています。

2021年の今について、雑感

高橋圭介（平成7年電気卒）

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々、および、ご家族、関係者の皆様に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

また、医療従事者様をはじめ、行政の皆様等、感染拡大防止にご尽力されている皆様に深く感謝申し上げます。

□はじめに

このような機関誌というものは1年に1度、概ね毎年発行されるもので、多くの筆者はその年に起きた出来事などをこの同窓会誌の趣旨に寄せて書くことが多いと思う。私も多分に漏れず、それをテーマとして、ここに筆を執らせていただきました。（筆は使わずパソコンなのですが。）

後にこの誌を開いたとき、2021年がこんな年だったなあ、と感じていただければ幸いです。

□AIと新型コロナウイルス

2019年の終わりごろから始まった新型コロナウイルスのパンデミックは、この記事を書いている2021年末近くになっても新しい変異などで終息が見えてこない状況である。

このウイルスと戦う武器としてAI（artificial intelligence；人工知能）がニュースになることが増えてきました。

2021年の冬は第6波を迎えるという状況であるが、感染者数のAI予測がよく当たっているという事がわかった。AIは他に、ウイルス変異の予想、追従するワクチンや特効薬の開発、治験結果の予想と、ウイルスはAIによって克服されつつあり、AIはウイルスによってその有効性が世界中に示され、AIが広く認知をされた年、2021年であった。

□スマートフォンが変えるコミュニケーション

最近、奇妙な風景を電車の中で見かけた。

4人組の友達同士がどこかへ出かけた帰りなのか、何やら楽しそうだ。しかし、全員スマホを見つめている。失礼ながら画面が少し見えてしまったのであるが、何か記念写真を撮ったのだろうか。だが、この写真が凄い、まるでゴルフスイングの分解写真の如く同じような写真の画像で埋め尽くされている、必死にそこからお気に入りを選んでいのでしょうか。さらに驚いたことに目の前に友達がいるのに何かを打ち込み、画面をみるように促している、言葉はない。恐らくメッセージアプリで写真とメッセージを送っているのだろう、何も目の前にいる相手にそんなことしなくてもいいのに。しばらく、そんなやり取りが繰り返されていた。

写真を大量に撮影することも、言葉もなくスマホのメッセージを介してコミュニケーションをとることも（電車の中で会話がないうのは今のご時世仕方がないと思うが）2021年、だいぶ世の中は変わってしまったな、と感じる瞬間だった。

□終わりに

2021年はオリンピックとコロナウイルス一色の年でありました。2022年は良い年であることをお祈りし、筆を置かせていただきます。

水上のキャニオニング体験の時の写真です。
この直後20m下の滝つぼに落下します！



プラズマ技術の産業応用 アンモニアを用いた脱炭素技術の開発

三浦友規（平成16年電電院）

藤原・高木研究室での大気圧プラズマ研究から始まって、会社に入ってからプラズマ電源の開発、プラズマを用いた排ガス処理（NO_x 処理）、水素製造、CO₂ 還元、アンモニアの燃料利用に関する開発に携わってきました。ここではアンモニアの燃料利用について紹介したいと思います。

地球温暖化をはじめ環境問題への取り組みが重視される中で、次世代のエネルギー源として水素に大きな注目が集まっています。水素社会の構築ということは以前から言われ続けていますが、水素を「つくる」「ためる」「はこぶ」「つかう」全てのシーンが高コストであり、普及を阻んでいると言えます。

水素社会の構築を阻む一番の根本的な問題は発電システムです。内燃機関と燃料電池の発電装置単価（¥/kWh）には10倍以上の価格差があります。これでもかなり安くなっており、10年前は更に一つ桁が違いました。国としては燃料電池の低コスト化の研究開発に重点を置いています。現在の半分程になってくると普及し始めるのではないかと思います。本質的に白金を使用するという問題があるのでなかなか難しいというのが本音です。

そういったことを踏まえ、水素エネルギーシステムの限界を打破する新システムの提案として出てくるのがアンモニアです。アンモニアをエネルギーとして普及させ、水素キャリアにするというのが私の研究開発テーマです。アンモニアは価格も安く、実現すれば早期の社会実装が見込まれます。またCO₂フリーで作ることもできます。

アンモニアは廃プラから作ったり、半導体工場などから出たアンモニアの排ガスを水に溶かして回収し、エネルギーとして再利用することも可能です。その他、石炭のガス化プラントの副生されたアンモニア、NO_x から作ったアン

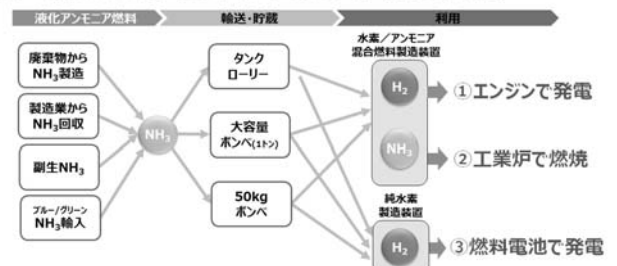
モニア、海外でCO₂フリーで作られたグリーンアンモニアなど、多くのルートがあります。

タンクローリーや大型ボンベなど、配送の技術もすでに確立しています。ユーザーはアンモニアから水素を作ることもできます。一部で水素を作り、残りでエンジンを動かすということも可能です。またH₂/NH₃混合燃料が使用可能な内燃機関には、多くの種類がありますので、様々な発電量でアンモニアを使うことができます。

私が開発した技術として、アンモニアから純水素をつくる装置があります。これにはプラズマ技術を使っています。アンモニアを高電圧を印可してプラズマ状態にして、多くの水素原子(H)を作ります。そして高電圧電極として使用している水素分離膜に水素原子だけを透過させることで、水素分子(H₂)になって出てきます。プラズマと水素分離膜を利用することで、一つの装置で、アンモニアの分解、分解ガスからの高純度水素の精製が可能です。装置は小型で、片手で持てるほどの大きさです。製作した装置で1時間に300Lの高純度水素(99.999%)を確認しております。

本技術開発は、諸先輩方の技術の積み重ねによるものであり、我々はこれからも諸先輩方の技術を超えられるような開発を行い、社会課題の解決に向けて尽力したいと思います。

CO₂フリー燃料を早期に社会実装するためのシステムの提案



①エンジン ②燃焼 ③燃料電池の3つの観点で燃料製造装置を開発



支部だより

令和3年度東京支部報告

東京支部長 狩野利之（昭和61年電子卒）

1. コロナ禍の中での東京支部大会

新型コロナウイルスの蔓延が続き、同窓会活動が直撃を受けて2年が経ちました。まだまだ先が見えない状況ですが、皆様のご賛同をいただきまして、2021年度の東京支部大会は、Zoomを利用したリモート形態にて2021年6月26日に開催いたしました。

総勢51名の皆さまにご参加いただきました。特に、久保田会長、太田原相談役、柏葉相談役、講演いただきました山中克久先生と大学の恩師の先生4名の方にご参加いただけたこと本当にありがたく、あらためて御礼を申し上げます。柏葉相談役からは一祐会の副会長のお立場で小櫻会長のメッセージもいただきました。また、対面の会にはなかなか足を運べなかったが卒業以来、初めて同窓会に参加いただいた方、そして昨年3月に卒業したばかりの若手にもカナダから参加いただけるなど、リモートならではの良い面も多くあったと感じております。



会の中では、支部活動や決算、予算等の承認、会則の改定などに続いて、知能・メディア情報コース長の山中克久先生から「あみだくじのフシギ」と題してご講演をいただきました。QRコードをご提示いただきゲーム形式でその場で体験したり工夫を凝らした研究内容のわかりやすい解説、あわせて大学の近況や岩手での生活の様子など幅広くお話をいただきました。

また、参加いただいた方全員に一言ずつ近況報告をお願いしましたが、H16院了の三浦友規様から会社で担当されているアンモニアを用いた脱炭素技術の紹介があり、こちらも興味深い

内容でありました。最後に恒例の岩手大学学生歌をYouTubeの映像を見ながらネットの時間差を気にせず？大合唱いたしました。



2. 2022年の支部活動

今年は当科会創立80周年を迎え、6月には記念式典や祝賀会が予定されております。東京支部としても、スライドの作成や対面を予定している会に加えてリモートでのライブ配信もハイブリッドで実施することなどで貢献していきたいと考えております。これに伴い例年6月に開催している東京支部大会を秋に実施することといたしました。

＜2022年度東京支部大会（予定）＞

- ・日時：2022年10月15日（土）14時～
- ・場所：新宿 日本料理 三平
サンパークホール

※リモートによるライブ配信も実施

3. 連絡用フォーム利用促進のお願い

今後もリモートを活用した同窓会活動や情報連絡の利便性を考慮して、昨年より連絡用フォーム利用したメールアドレスのご登録をお願いしております。これまで多くの方にご登録いただきましたが、80周年記念式典のライブ配信、また記念ビデオ等、在校生を含めた多くの方に情報配信する為にも、是非QRコードよりアクセスいただき、ご登録いただくと共に水平垂直展開の協力をお願い致します。



↑↑↑連絡用フォームのQRコード
URL: <https://forms.gle/5AajqLjbfu1Mf8y6>

令和3年度仙台支部報告

仙台支部長 田 中 利 光（昭和53年電気卒）

令和3年度支部総会（以下、総会）の準備を進めていた5月半ば、宮城県では新たな新型コロナウイルス感染者数がこれまでで最大の200人/日（3月31日）となるピークを過ぎていましたが、全国的には感染拡大の第4波のまっただ中にいました。その時点で、総会開催予定の1か月後の新型コロナウイルスの感染状況がどのような状態になるのかを想定することは難しいものの、少なくとも本部からの来賓の方の移動や飲食を伴う懇親会を行うことは無理だろうとの判断により、総会は止む無く昨年度と同様の役員一任によるメール方式での開催としました。

総会準備のための役員会については、新型コロナウイルスの感染状況により集合しての開催は難しいためメール方式で開催しましたが、メール方式では双方向での意見交換が難しいことから、Zoom会議方式での開催を試みました。しかしながら、各役員の情報端末の環境が異なることから参加者が限定的となって、役員相互の意見交換はなかなか難しい状況でした。これは今後の課題として捉えております。

令和3年度支部総会においては以下の内容が報告、決定されております。

①令和2年度事業報告

- ・支部総会……Eメール会議
- ・役員会……第1回……Eメール会議
第2回……Zoom会議
第3回……Zoom会議
- ・支部活性化事業

新年会、長寿者を祝う会いずれも中止

②令和2年決算報告及び会計監査報告

③令和3年度事業計画

- ・支部総会……Eメール会議
- ・役員会……随時
- ・支部活性化事業
 - ・新年会（令和4年1月）
 - ・長寿者を祝う会（令和4年4月）

④令和3年度予算

全国的に新型コロナウイルス感染拡大は総会終了後に第5波を迎え、8月20日には新規感染者数が25,992人/日と過去最多を記録しました。しかし、その後は減少に転じ、この12月では全国的には100人前後、宮城県では0人若しくは数人という状況になっています。10月31日まで、宮城県及び仙台市からは県外との不要不急の往来自粛、飲食を伴う大人数や長時間におよぶ会食・行事の自粛などが要請されていましたが、11月1日によりやくそれらの要請が解かれました。

令和4（2022）年は岩手大学電気電子情報科会創立80年となる年であることから、同年6月にここ仙台で科会80周年記念事業が計画されています。前述の自粛要請が解かれことにより、11月20日よりやく顔を突き合わせての令和3年度第1回役員会を記念事業開催予定場所の調査も兼ねて開催することができました。

新型コロナウイルス感染については「オミクロン株」という新たな変異株が現れ予断を許さない状況ですが、前述の自粛要請が出ない状況が維持され、記念事業が予定どおり開催されることを祈っております。無事に開催される場合は、どうぞ皆さんこの仙台に足を運んでみてください。お待ちしております。

令和3年度盛岡支部報告

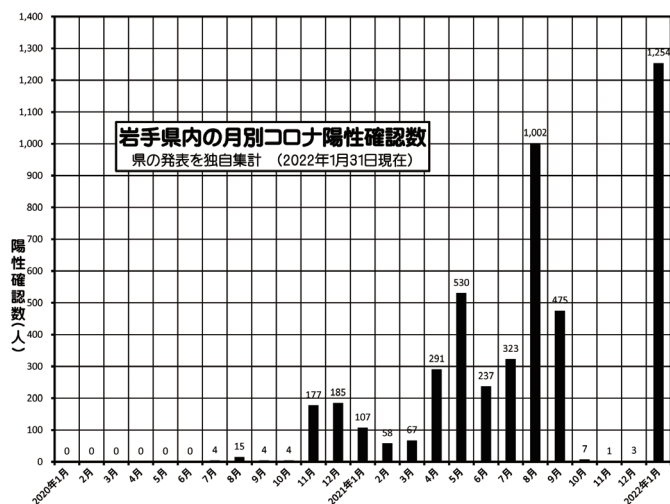
盛岡支部長 宮手敏雄（昭和44年電気卒）

1. 岩手県内の近況

2020年2月、豪華クルーズ船の横浜入港で始まった国内の新型コロナ禍。不遜ながら、当初は対岸の「火事場見物」のようにニュースを見ていました。全国に感染が広がり旅行や集会の自粛が広がる一方、岩手県内だけは7月下旬まで不思議なほど感染ゼロが続き「山だけで“人”が少ないから」とネットで揶揄されました。

7月29日に県内初の感染が確認され、この年末年始はやや増えましたが、翌年4月から急激に上昇しました。岩手大学でも式典などの規模縮小や中止が続き、講義もリモートが主流になり構内は閑散となりました。アルバイトの減少など、学生生活にも大きい影響が続いています。

対策面では感染防止の自粛要請が徹底され、ワクチン接種も始まり、延期された東京五輪やパラリンピック開催も決まりました。夏頃にはコロナ禍は鎮静に向かい、秋には科会行事を再開できると期待しました。



ところが東京五輪とパラリンピックの夏は感染第5波のピークで、8月には岩手県内でも過去最多の月間1,002人の感染者が出ました。しかし、秋本番と共に感染が急激に減り、11月中旬からは県内感染ゼロが続き、年末年始は帰省客が増え、街にも賑わいが戻ったような新年

を迎えました。

しかし、平穏は長続きせず、海外でオミクロン株が拡大。国内、県内でも1月中旬から徐々に増え、下旬に入ると第5波を超える勢いで感染が激増しました。県央部と県南で複数のクラスターが発生、若年層にも広がり、感染者は僅か1週間で昨年8月のピークを大きく越えました。

原稿締め切りの猶予をお願いして1月末現在の状況です。「きたかみ」68号がお手元に届く頃には、今度こそ終息に向かって欲しいです。

2. 盛岡支部主催行事は中止

通常の「事業所見学会」と「支部主催新年会」はコロナ禍のため、2年連続の中止としました。見学会は訪問する事業所様にもご迷惑をお掛けします。新年会は会場となる施設やホテルが感染防止上、飲食はアクリル板で仕切り「黙食」で行い、歓談はマスクが必要。円卓・大皿は業界の自粛基準で、一人ごとの配膳となり費用は倍近くなることから、残念ですが中止を決めました。

3. 支部総会報告

支部総会は盛岡以外で科会総会を開く年は行わず、翌年盛岡での科会総会時に併催して2年分を審議しています。令和3年度の科会総会は仙台市を予定していましたが、コロナ禍のため盛岡に変更し、理事会が総会を兼ねることになりました。これを受けて支部総会も令和3年6月26日の理事会で併催しました。

支部総会の議案は次の通りです

1. 令和2年度 事業報告
2. 令和2年度 決算並びに会計監査報告
3. 令和3年度 事業計画
4. 令和3年度 予算
5. その他

出席者は13人で、全議案とも満場一致で承認されました。

令和3年度岩手大学電気電子情報科会総会

岩手大学電気電子情報科会令和3年度総会は、新型コロナウイルスの収束が見えず、県をまたぐ移動が困難な状況により、盛岡近郊の理事、相談役と会計監査13人の出席で開催されました。東京支部長、仙台支部長は理事会、総会ともにZoomで参加しました。

岩手県は他の都道府県に比べて、コロナ罹患者は少ないのですが、それゆえに感染拡大防止により慎重になっているように感じます。

令和4年度総会は会員が気楽に集えるようになることを祈っています。



[議事録]

令和3年6月26日(土) 10:25～
エスポワールいわて1F

議長：大羽澤仁志氏(平成2年電気卒)
書記：木村 彰男氏(平成3年情報卒)

○第1号、第2号議案について

事務局より、下記の令和2年度事業5件および令和2年度決算について報告が行われた。

- きたかみ67号発行
- ホームページ運用
- 正会員歓迎会(新型コロナ感染症拡大予防のため中止)
- 草刈賞委員会活動(選考委員6名、電気電子通信コースから2名受賞)
- 会費検討委員会活動

続いて、佐々木会計監査より監査報告が行われ、これら二つの議案については特に異議なく、拍手にて承認された。

○第3号、第4号議案について

事務局より、令和3年度の事業計画案6件(きたかみ68号発行、ホームページ運営、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動、科会創立80周年記念事業実行委員会活動)について説明があり、続いて、これら事業計画を勘案した令和3年度の予算案について詳細説明が行われた。さらに基金会計から支出予定の奨学寄附金(コロナ禍困窮学生への支援)に関して詳細説明があった。

これらの提案内容については特に異議なく、拍手にて承認された。

○第5号議案について

事務局より科会創立80周年事業の内容・予算案について詳細な説明が行われた。

特に異議なく、拍手にて承認された。

○その他

以上

令和2～3年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和4年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業(卒回)	役職名	氏名	卒業(卒回)
会長	久保田 賢 二	S 42 (気 15)	東京支部		
副会長	恒 川 佳 隆	S 55 (気 28)	幹 事	薄 衣 文 雄	S 41 (気 14)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	S 45 (子 1)	幹 事	小 磯 巖 男	S 51 (気 24)
副 会 長	立 花 龍 一	S 61 (情 8)	幹 事	畠 山 主	S 54 (情 1)
理 事	小野寺 瑞 穂	S 29 (気 2)	幹 事	吉 澤 和 弘	S 54 (情 1)
理 事	佐 藤 匡	S 40 (気 13)	幹 事	畠 山 寧	S 59 (子 15)
理 事	吉 田 英 夫	S 41 (気 14)	幹 事	田 口 之 博	S 61 (子 17)
理 事	武 田 寿 郎	S 41 (気 14)	幹 事	山 道 隆 男	S 62 (気 35)
理 事	千 葉 則 茂	S 50 (気 23)	幹 事	富 塚 秀 樹	H02 (気 38)
理 事	鳥谷部 達 雄	S 56 (情 3)	幹 事	中 山 靖 茂	H04 (気 40)
理 事	伊 東 寿 枝	H01 (子 20)	幹 事	遠 藤 慎 介	H04 (子 23)
理 事	村 田 崇	H02 (気 38)	幹 事	三 浦 友 規	H16(電電院)
理 事	大羽澤 仁 志	H02 (気 38)	盛岡支部		
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S 44 (気 17)	幹 事	岡 英 夫	S 48 (子院 4)
理事・仙台支部長	田 中 利 光	S 53 (気 26)	幹 事	池 内 達	S 50 (子 6)
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S 61 (子 17)	幹 事	佐 藤 信	S 57 (子 13)
理事・事務局	長 田 洋	S 62 (気 35)	幹 事	佐 藤 文 昭	S 59 (子 15)
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 (情 13)	幹 事	泉 澤 栄	S 60 (子 16)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11(電情博)	幹 事	高 橋 康 浩	S 62 (気 35)
会 計 監 査	佐々木 眞 嗣	S 62 (子 18)	幹 事	伊 東 寿 勝	H01 (気 37)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	千 葉 幸 二	H04 (情 14)
顧 問	藤 原 民 也	特	幹 事	金 澤 博 昌	H06 (情 16)
相談役(元会長)	阿 部 長 一	S 19 (専 4)	仙台支部		
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S 24 (専 8)	幹 事	千 葉 浩 克	S 40 (気 13)
相談役(元会長)	太田原 功	S 30 (気 3)	幹 事	菅 野 丘	S 63 (情 10)
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S 38 (気 11)	幹 事	菅 原 利 一	S 55 (気 28)
相談役(元会長)	籾 福 寛	S 38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	S 55 (気 28)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H09 (電電2)

令和3年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース教職員名簿

令和4年1月1日現在

電気電子通信コース (コース長 本間尚樹 教授)	
職名	氏名
教授	長田 洋
教授	小林 宏一郎
教授	高木 浩一
教授	恒川 佳隆
教授	西館 数芽
教授	本間 尚樹
教授	向川 政治
准教授	叶 榮彬
准教授	秋山 雅裕
准教授	菊池 弘昭
准教授	大坊 真洋
准教授	高橋 克幸
准教授	三浦 健司
助教	阿部 貴美
助教	岩井 守生
助教	佐藤 宏明
助教	田野崎 真司
助教	村田 健太郎

知能・メディア情報コース (コース長 山中克久 教授)	
職名	氏名
教授	今野 晃市
教授	永田 仁史
教授	西山 清
教授	萩原 義裕
教授	藤本 忠博
教授	山中 克久
准教授	明石 卓也
准教授	木村 彰男
准教授	張 建偉
准教授	中谷 直司
准教授	松山 克胤
講師	平山 貴司
助教	佐藤 信
助教	藤岡 豊太
助教	盧 忻
事務補佐員	懸 田 ひかる

理工学系技術部

職名	氏名
技術専門員	千葉 寿
技術専門員	萩原 由香里
技術専門職員	志田 寛
技術専門職員	藤原 歩
技術専門職員	古館 守通
技術職員	庄司 愛子
技術職員	増山 静香
技術職員	平山 有沙
技術職員	太田 康治
技術職員	紺野 亮
技術職員	千葉 茂樹
技術職員	那須川 徳博
技術職員	星 勝徳

情報技術部

職名	氏名
技術室長	栗田 宏明

令和3年年表

1/18	令和2年度第3回理事会事前打ち合わせ 「きたかみ」67号第3回編集委員会 第2回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部 地域連携センター
1/24	電気電子工学専門研修 「電機業界の最新動向」一般社団法人日本電機工業会
1/27-28	令和3年度大学院総合科学研究科理工学専攻第2期入学者選抜試験《令和3年4月入学》
1/29	令和3年度大学院理工学研究科博士課程第2期入学者選抜試験《令和3年4月入学》
1/30	令和2年度第3回理事会 13人 盛岡市エスポワールいわて
2/4	入学願書受付締切. システム創成工学科電気電子通信コース:前期 1.7倍, 後期 3.9倍, 同知能・メディア 情報コース:前期 1.9倍, 後期 5.8倍
2/15	理工学専攻電気電子通信コース 修士論文審査会
2/18	知能・メディア情報コース 卒業研究発表会
2/19	理工学専攻知能情報コース 修士論文審査発表会
2/25	令和3年度理工学部 一般選抜個別学力検査 前期日程
3/1	「きたかみ」67号発行 5400部
3/3	電気電子通信コース 卒業研究発表会
3/12	令和3年度理工学部 一般選抜個別学力検査 後期日程
3/23	岩手大学学位記授与式(卒業式・修了式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止) 理工学部卒業生:システム創成工学科(電気電子通信コース67名, 知能・メディア情報コース54名) 工学部卒業生:電気電子・情報システム工学科(情報システム工学コース3名)
3/27	80周年記念事業第1回実行委員会 11人 盛岡市エスポワールいわて 小会議室
3/31	知能・メディア情報コース 吉森久准教授 定年退職
4/7	岩手大学新入生オリエンテーション(入学式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止) 理工学部入学生:システム創成工学科電気電子通信コース69名(うち地域創生特別プログラムもの づくり系2名), 同知能・メディア情報コース63名(うち地域創生特別プログラムものづくり系2名) 3年次編入学生:電気電子通信コース3名, 知能・メディア情報コース1名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生:電気電子通信コース41名, 知能情報コース18名
5/6	電気電子工学専門研修 「携帯電話の歴史」(株)NTTドコモネットワークイノベーション研究所
5/25	令和2年度岩手大学電気電子情報科会計監査 大坊真洋会計監査(メールによる監査)・佐々木真嗣 会計監査・久保田会長・柏葉相談役・柳橋副会長 上田公民館第2集会室
6/3	電気電子工学専門研修 「森林資源を利活用した地域循環とSDGs」竹中工務店技術研究所
6/10	電気電子工学専門研修 「フラッシュメモリの秘密と半導体技術の動向、そして半導体産業の拡大について」キオクシア岩手(株)
6/14	令和3年度第1回理事会打ち合わせ、80周年記念事業第2回実行委員会打ち合わせ 久保田会長・柏葉 相談役・立花副会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センターミーティングルーム
6/17	電気電子工学専門研修 「半導体製造での薄膜成膜技術」東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ(株)
6/18	令和4年度理工学部一般編入学者選抜試験
6/19	令和3年度第1回理事会・80周年記念事業第2回実行委員会 15人(東京支部長・仙台支部長 ZOOM 参加) 上田公民館視聴覚室
6/19	令和3年度仙台支部総会 メール会議
6/24	電気電子工学専門研修 「車載向け高性能半導体品質 (株)デンソー岩手の取り組み」(株)デンソー岩手
6/26	令和3年度岩手大学電気電子情報科総会 13人(東京支部長 ZOOM 参加) エスポワールいわて3 階特別室 令和2年度事業報告・決算報告・監査報告、令和3年度事業計画・予算、80周年記念事業について
6/26	令和3年度盛岡支部総会 エスポワールいわて
6/26	令和3年度東京支部大会 Zoom 会議
7/1	電気電子工学専門研修 「トヨタ自動車東日本の取組みについて」トヨタ自動車東日本(株)

7/8	総合科学研究科（修士課程）理工学専攻推薦入学者選抜試験《令和4年4月入学》
7/8	電気電子工学専門研修 「半導体微細加工を応用したデバイス」東北大学 マイクロシステム融合研究開発センター センター長 戸津健太郎 氏
8/6	岩手大学 Web オープンキャンパス開始
8/18-20	令和3年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和3年10月入学》 令和4年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和4年4月入学》 令和3年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和3年10月入学》 令和4年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和4年4月入学》
8/23	電気電子・情報システム工学専攻博士課程（電気電子工学分野）博士論文にかかる公聴会
8/28	令和3年度第2回理事会 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期
9/22	令和4年度理工学部総合型選抜Ⅰ入学試験（第1次選考）
9/24	令和3年度岩手大学修了式・卒業式（農業教育資料館） 理工学部卒業生：知能・メディア情報コース1名 工学部卒業生：電子電子・情報システム工学科1名 大学院工学研究科博士後期課程修了生：電気電子・情報システム工学専攻2名
9/下-10/上	理工学専攻（修士課程）電気電子通信コース修士論文中間審査会
10/1	岩手大学入学式（令和3年度10月入学者） 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース1名、知能情報コース1名
10/8	令和4年度理工学部総合型選抜Ⅰ入学試験（第2次選考）
10/9	令和4年度理工学部総合型選抜Ⅱ入学試験（第1次選考）
10/22	電気電子工学専門研修 「半導体産業とジャパンセミコンダクター」(株)ジャパンセミコンダクター 岩手事業所
10/29	電気電子工学専門研修 「インフラに関わる電気機器メーカーとしての社会貢献」エナジーサポート(株)
11/1	令和3年度第2回理事会事前打ち合わせ 理事会提案事項について 久保田会長・立花副会長・柳橋副会長・長田理事・木村理事 岩手大学理工学部地域連携センター
11/5	電気電子工学専門研修 「非接触バイタルセンシングの最新動向」(株)フォスメガ
11/6	令和3年度第2回理事会・80周年記念事業第3回実行委員会 エスポワールいわて 16人
11/12	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」(株)花巻バイオマスエネルギー、(株)釜石電機製作所、(株)アイオー精密
11/19	令和4年度岩手大学理工学部学校推薦型選抜入学試験
11/22	電気電子工学専門研修 「再生可能エネルギーの見通し：風力発電を中心として」(株)日立パワーソリューションズ
11/24	きたかみ68号第1回編集委員会 岩手大理工学部地域連携センター 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事
11/26	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」リコーインダストリアルソリューションズ(株)、(株)ワイ・デー・ケー、(株)ツガワ
11/下	理工学専攻（修士課程）知能情報コース修士論文予備審査会《令和4年4月修了予定者》(分野別)に実施)
12/6	理工学専攻（修士課程）知能情報コース1年次中間発表会（ポスター発表形式）
12/8	理工学専攻（修士課程）電気電子通信コース1年次中間発表会
12/10	電気電子工学専門研修 「気候変動問題に係る最近の動向と当社を取り巻く状況」東北電力(株)
12/17	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」(株)ジャパンセミコンダクター、(株)デンソー岩手、キオクシア岩手(株)
12/18	令和3年度第3回情報処理学会東北支部研究会（オンライン開催）
12/22	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」富士フィルムヘルスケアマニュファクチャリング(株)、東北電力(株)、(株)P・Oイノベーション
12/27	きたかみ68号第2回編集委員会及び新年理事会及び新年会の件、打ち合わせ 岩手大理工学部地域連携センター 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋理事

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。

理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名 | 正会員より選出する。 |
| 幹 事 | | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長がこれを委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |

- 第17条 各役員任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行う。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
(昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)

「きたかみ」68号 トピックス

コロナ禍の学生救済のため、イーハトーヴ基金へ寄付しました

コロナ禍の長期化により経済的に困窮している学生に、科会として支援できないかとの提案があり、理事会・総会での承認を得て科会基金会計から50万円を「岩手大学修学支援事業基金」として寄付いたしました。学長からのお礼状が届き、立派な銘板が学生センターに掲げられました。大学においでの際はぜひ学生センターに足を運んでください。

岩手大学電気電子情報科会 様

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃から、本学の教育研究に対して深い御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。またこの度は、本学の「岩手大学イーハトーヴ基金」にご寄附いただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大し予断を許さない日々が続いております。本学では学生が少しでも安心して学生生活を送れるよう、消毒液やサーマルカメラ、パーティションの設置等、感染症対策の徹底に努めているところです。この度いただきましたご寄附は、感染症の影響を受け、経済的に困窮している学生への支援に有効的に活用させていただきます。

岩手大学はこれからも、学生、教職員の共考と協創（共に考え、協力して創る）により、教育・研究・社会貢献の各領域において地域に頼られる、そして尊敬され愛されるONLY ONEの大学を築き上げていく所存でありますので、今後とも格段のご支援賜りますようお願い申し上げます。

本来ならば参上して御礼を申し上げるべきところでございますが、略儀ながら、書面をもってかえさせていただきます。最後になりましたがみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

敬具

岩手大学長
小川 智



編集後記

きたかみ68号をお届けします。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどの事業が見送られました。令和4年度総会とともに準備を進めている創立80周年記念式典や祝賀会を無事に開催できることを祈る日々です。

今年1月は、雪も多く冷え込みました。毎日の雪かきにうんざりしています。春が待ち遠しい盛岡です。コロナも落ち着いて晴れ晴れとした春を待っています。

- 編集委員 久保田 賢 二 (会長：昭和42年電気卒)
 柏 葉 安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)
 宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)
 立 花 龍 一 (副会長：昭和61年情報卒)
 長 田 洋 (事務局：昭和62年電気卒)
 木 村 彰 男 (事務局：平成3年情報卒)
 柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

き た か み 第68号

発行日 令和4年3月1日
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号
岩手大学工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6381
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通2丁目8番37号
☎ 019-623-2361

創立80周年記念式典並びに令和4年度総会のご案内

岩手大学電気電子情報科会は令和4年1月1日で創立80周年を迎えました。そこで、創立80周年記念式典と令和4年度総会を下記のとおり開催いたします。記念式典では、75周年以降に該当者となられた功労者4人の方々を表彰いたします。その後に祝賀会で受賞者の方々や恩師、会員のみな様とご歓談をお楽しみいただきたいと思います。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

なお、住所や勤務先の確認にも使用させていただきますので、綴込みのハガキで総会・記念式典・祝賀会の出欠を令和4年5月25日までにご連絡いただきますようお願いいたします。

記

日 時：令和4年6月25日（土）※リモートによるライブ配信をも合わせて検討中

仙台支部総会 午後1時00分～1時30分

総会 午後1時30分～2時30分

記念式典 午後2時30分～3時30分

記念講演 午後3時30分～4時30分

記念写真 午後4時30分～5時00分

祝賀会 午後5時00分～7時00分

場 所：仙台市 仙台ガーデンパレス

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目1-5

電話 022-299-6211

記念式典：草刈功労特別賞表彰

草刈功労賞表彰

総会 議題：1. 令和3年度事業報告・決算報告

2. 令和4年度事業計画案・予算案

3. その他

祝賀会会費：6,000円（席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方をご招待し、祝意を表します。

叙勲された方をご存じの方はお知らせください）

なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、総会、記念式典・祝賀会が延期または中止になることがあります。ご了承ください。

連絡先：総会出欠や叙勲された方のお知らせ等、会誌「きたかみ」に綴込みのハガキを使用するか、下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会

E-mail：iwate.ddj.kakai@gmail.com

岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学理工学部内）

電気電子通信コース担当

長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

知能・メディア情報コース担当

木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

庶務会計・学外担当

柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

<連絡用フォームへご登録のお願い>

リモートやメールを活用した同窓会活動や情報連絡に使用します。

連絡用フォームのQRコード

URL：<https://forms.gle/5AajqLjbffu1Mf8y6>

